

# 東日本大震災薬剤師ボランティア報告書

九州山口薬剤師会第5班  
宮崎県薬剤師会 薬局つばめファーマシ  
萩田均司

派遣期間：平成23年4月8日～11日

派遣場所：宮城県石巻市

活動内容：下記参照

## 【活動概要】

日本薬剤師会（四谷）より、トヨタアイシスにて首都高速～東北縦貫道にて宮城県薬剤師会へ移動。宮城県薬剤師会ロゴ入り緑色ウインドブレーカーと宮城県薬剤師班ネームプレートを受け取り、石巻市へ移動。前日深夜の余震の為三陸道は閉鎖されていたため、国道で石巻へ。仙台～石巻は3時間かかった。

石巻高校避難所薬剤師会を拠点に活動開始。リーダーの指示の下、牡鹿半島の孤立している避難所巡回、本部機能補佐を担当。

11日10:00AM 帰路に就いた。

## 【避難所の状況】

避難所により、状況は様々であるが、ほとんどの避難所に自衛隊が入り込み、最低限の物資は充足していた。自衛隊の衛生班が曜日を決めて巡回診療を行っていた。また、大きく体調を崩している避難民は存在しなかった。

避難民からの要望として、ハンドクリーム、点鼻薬、アレルギーの点眼薬、鎮咳薬の要望が多かった。また、救援物資は、おにぎりを中心に炊き出しの味噌汁や豆腐一丁で炭水化物やタンパクは何とか摂取出来ているが、野菜不足の状況であり、野菜やビタミン剤などが必要と思われた。

また、病状の訴えは、ほとんどが不安感から来るもので、精神的な疲労が多く一人一人のメンタルフォローが必要な段階になってきたと思われた。

## 【支援体制】

各避難所の臨時診療所での調剤業務、病院の調剤業務

女川町立病院、女川総合体育館、石巻高校、渡波小学校、湊小学校、

調剤業務は、薬剤師裁量が多く、同種同効薬の変更や剤型変更薬剤師能力が発揮できている。

日赤石巻病院の避難所巡回診療、通称“メロンパンチーム”への参加

このメロンパンチームは、医師・看護師・薬剤師からなる巡回診療であるが、医師や看

護師が同行しない薬剤師のみのチームもある。薬剤師のみの場合、お薬手帳や実薬の確認ができれば、薬剤師が処方せんに処方に記載し処方せんのお薬引き換え券を患者に渡し、処方せんを日赤病院へ持ち帰ったあと医師の確認後調剤し、翌日巡回のメロンパンチームが調剤済みの薬と引き換え券との交換で配薬するシステムである。薬剤師は、OTC も持参して巡回しているが、数が不足したり、必要な OTC を持参していない場合、石巻高校避難所薬剤師会本部へ連絡が入り、本部が人員を手配して OTC をメロンパンチームとは別に届ける。(通称アンパンマンチーム) このアンパンマンチームも日赤病院指定処方せんを持参し、メロンパンチームが取りこぼした医療用薬品の処方をメロンパンチームと同様に処方できる。薬剤師会本部と日赤病院の連携強化の結果設立されたシステムである。

メロンパンチームが巡回しない地域の避難所をその他の人員で訪問するが、活動概要で述べた通り、自衛隊は巡回しているため、医薬品の供給よりは医薬品使用服薬指導のソフト面が重点であった。

## 【問題点など】

### 1. 通信環境

携帯電話または衛星電話で何とか通話は可能であったが、インターネットやメール通信などいわゆるデータ通信の環境があれば各段に情報収集・交換が進み、効率のよい支援が期待される。石巻高校では、SOFTBANK のルーターのみ繋がったが、非常に稀弱であった。山形県の薬剤師が私物のルーターをしばらく貸与してくれた。

### 2. 人員配置

細かな人員配置がなされておらず、4月10日は24人、11日は5人と極端な人員配置が見られた。最低限避難所の調剤を行う薬剤師の確保はしたかった。

また、九州山口だけではあるが、業務引き継ぎが東京であったため派遣にタイムラグが発生し、人員のポケットを作ってしまった。(今後引き継ぎは宮城と聞きました。)

現場の日替わりのリーダーの裁量にかかっている。

### 3. 業務マニュアル

業務マニュアルがなく、業務の概要を把握していないと、効率のよい支援が出来ない。現場からは、派遣期間の長い薬剤師を希望しているが、業務マニュアルがあれば派遣期間の長短は問わずにすむと思われる。

### 4. 避難所リスト

避難所リストがはっきりと示されておらず、避難所を探す手間が大きかった。また、避難所の連絡先(電話番号)がわかれば事前に電話連絡をして必要医薬品をそろえる事が出来る。(現在石巻地域に関しては作成中です。)

### 5. 連携

J-MAT, D-MAT, T-MAT, PCAT や各地域医師会及び自衛隊が有機的に連携しておらずこれらの連携がしっかり図れば支援は格段に進歩するものと思われる。

特に、自衛隊は、宮城県薬務課より OTC の供給をうけているので、自衛隊と薬剤師会が協力すれば、避難所への OTC 支援は各段に進歩する。

## 6. 備蓄

宮城県薬備蓄のリスト (OTC) がはっきりと示されておらず、発注がうまく出来ず OTC の在庫が極端に偏っていた。(OTC の能力を有する薬剤師が少なく、効率よく利用されていない点も問題である。メーカー勤務の薬剤師が OTC の説明・服薬指導がうまく出来ず現場が混乱した事があった。)

医療用医薬品や調剤備品 (投薬瓶・計量カップ・軟膏壺など) は日赤石巻病院より補給できた。

## 7. 装備

派遣場所により、必要装備に偏りがあり、事前に具体的な派遣場所が分かれば装備に工夫ができた。

また、考え方に違いがあるかもしれないが、孤立避難所を巡回するのであれば車輪径の大きい四輪駆動車は必要である。道路の亀裂や段差がある悪路が多かった。運転技術未熟者は危険である。

## 8. 指揮官

現場に薬剤師が兵隊として沢山参加していただくので大変ありがたいが、業務を整理したり、他職種や行政との連携やマネジメントを行う指揮官の必要性を痛感した。ボランティア参加した個人の自己満足で終わるのではなく、有機的な連携と復興に向けたゴールを見据えた動きを今後希望する。

また、短時間ではあったためか、石巻の開局の薬剤師は丹野先生しか顔が見えず、どうなっているのか不明であった。石巻日赤病院の門前の薬局は、目前の処方せん調剤で手いっぱいである事は理解できたが。

### 【今後の展望に向けて】

石巻に関しては、被災しなかった薬局はそれこそ、処方せんが多く集まり特需の状況ではあるが、被災して店舗を失った薬剤師が今後どのように復興するかが課題である。

その一つとして潜在的な在宅医療が多く存在するのが見られた。今後在宅医療を見据えた地域医療再生をするのであれば、プレハブでも良いので会営薬局を立ち上げ、被災して職を失った薬剤師の受け皿として雇用を創出する事も一つの方法である。

### 【個人的感想】

阪神淡路大震災、中越地震の時、何もできない自分にジレンマを感じていたが、今回は少しは動く事が出来た。一番大きく感じた事は、自衛隊の機動力には圧倒された。今後、有事の際には、自衛隊と有機的に連携できるシステムが構築できれば薬剤師の能力をもっと発揮できる。自衛隊との連携も模索して行きたい。実際自衛隊の指令本部を訪れたが、OTC

の供給元は宮城県薬務課である事が衛生班との話でわかった。と言う事は、宮城県薬剤師会と宮城県薬務課がもっと連携できる余地はあるという事である。ただ、薬剤師ボランティアが、「宮城県薬剤師班」として短なるボランティアではない立場で介入できた事は宮城県薬剤師会の大きな功績であると思った。

崩壊した街を目の当たりにしたが、まだまだできる事は沢山ある。いずれにしても、丹野先生を中心とした石巻の復興にこれからも後方支援として力を貸して行きたい。可能であれば、もう一度現地のシステム作成に石巻を訪れたい。

頑張れ日本！頑張れ石巻！頑張れ薬剤師！

### 【活動内容】

2011年4月9日

石巻班

福永圭一（長崎県）・榎園 勝（宮崎県）・萩田均司（宮崎県）

避難所等巡回場所

牡鹿半島（小網倉浜、鮎川、泊）

### 【巡回の状況】

小網倉浜地区避難所

海辺近くで作業している自衛隊員に避難所を訪ね訪問。

個人宅数軒を避難所として約50名が避難生活。自衛隊の物資は届いていたが、医薬品は供給されていなかった。健康状態の悪い避難者はいなかったため、OTCの風邪薬、胃腸薬、目薬、アミノ酸サプリメント、アリナミンEX、ボルタレンゲル・ローション、生理用品、消毒薬を提供した。

持参しなかった物品でブリーズテープをリクエストされた。

医療体制は、市立牡鹿病院が行っており、牡鹿病院を受診している。

市立牡鹿病院

副院長・薬局長・事務長と面談。医薬品卸が1社医薬品を運んでいるので不足している医薬品はない。避難所の自治区長が、地区の住民の処方薬をまとめて取りにくる場合もある。牡鹿半島地区は、その他自衛隊医療班が曜日を決めて巡回訪問をしているので医療用医薬品は充足していると思われる。

鮎川総合支所

支所の職員より避難所のリストを提供していただいた。

自衛隊より医療班の巡回訪問リストを提供していただいた。自衛隊は、薬剤師会の活動を理解していなかったが衛生班と連絡してもらい、自衛隊は、宮城県薬務課よりOTCの

提供を受けているが、不足している物品や薬品は無いと云われた。

牡鹿町泊地区コミュニティーセンター（区長 松川信義氏）

2か所で50名+96名が避難生活をしている。

健康状態の悪い避難者はいなかったため、OTCの風邪薬、胃腸薬、目薬、アミノ酸サプリメント、アリナミンEX、生理用品、消毒薬を提供した。

何よりもOTC供給に大変感激され昼食をごちそうになった。

道路状況

牡鹿半島は、道路環境は劣悪なので走行は細心の注意が必要である。亀裂箇所多数。自衛隊が仮設道路を設営しているところもあるが、何とか牡鹿半島は一周出来た。

#### 【問題点】

メロンパンチーム、自衛隊、薬剤師会の連携がうまく取れていない様子が感じられた。

避難所巡回は、電話等で訪問事前に必要なものを聞いてから訪問した方が効率良く訪問できると思われる。

また、4輪駆動の車があれば安全に巡回できると思われる。

避難所のリストを早めに作成し、定期訪問が出来れば良いと思われる。

2011年4月10日

石巻班

福永圭一（長崎県）・榎園 勝（宮崎県）・萩田均司（宮崎県）

本日の報告（石巻高校本部業務）

榎園・萩田

山形県からの応援があり、総勢24名。その為本部業務を行った。

日赤病院避難所エリアの把握とマップ作製。

避難所リストの整理

黒板記載の連絡事項を文書に作成

避難所配布OTCの受注、県薬発注、薬剤師派遣依頼のノート作成

各部隊の必要薬品、物品の手配、配送。

各部署の引き継ぎ等

問題点、今後の課題

1. 業務内容の引き継ぎ方法、業務マニュアルを完成させる
2. 石巻高校避難所の通信環境の整備（データー通信）により事務作業効率が格段に改

善される可能性がある。

3. メロンパンチーム、薬剤師会 OTC 避難所巡回チーム、自衛隊物資配布チームとの連携（避難所では、OTC がダブっている）

以上報告申し上げます。

平成 23 年 4 月 15 日